

新学習指導要領に対応した簡単な単元計画の構造図

① 単元名	中学校 第2学年 保健分野「健康と環境」	
② 指導内容の概要	③ 学習指導要領の内容	④ 学習指導要領解説の記載内容
(ア) (2)健康と環境について理解することができる。	身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること、身体に適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること、また、快適で健康な生活を送るための適度、適量や明るさには一定の範囲があること。	(ア)気温の変化に対する適応能力とその限界。気温の変化に対する体温調整の機能を例として取り上げ、身体には、環境の変化に対応した調節機能があり、一定の範囲内で環境の変化に適応する能力があることを理解できるようにする。また、熱中症や山や海での遭難などを取り上げ、体温を一定に保つ身体の適応能力には限界があること、その限界を超えると健康に重大な影響が見られることを理解できるようにする。 (イ)温熱条件や明るさの至適範囲。室内の温度、湿度、気流の温熱条件には、人間が活動しやすい至適範囲があること、温熱条件の至適範囲は、体温を容易に一定に保つことができる範囲であることを理解できるようにする。その際、これらの範囲は、学習や作業及びスポーツ活動の種類によって異なること、その範囲を超えること、学習や作業の効率やスポーツの記録の低下がみられることにも触れるようにする。明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しない至適範囲があること、その範囲は学習や作業などの種類により異なることを理解できるようにする。
(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関係があることから、衛生的な基準に適合するように管理する必要があること。	飲料水や空気は、健康と密接な関係があることから、衛生的な基準に適合するように管理する必要があること。	(ア)空気や衛生管理。室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できることを理解できるようにする。 (イ)飲料水の衛生的管理。水は、人間の生命の維持や健康及び生活と密接なかわりがあり重要な役割を果たしていること、飲料水の品質については一定の基準が設けられており、水道施設を設けて衛生的な水を確保していることの意味を理解できるようにするとともに、飲料水としての適否は科学的な方法によって検査、管理されていることを理解できるようにする。
(ウ) 人間の活動によって生じた廃棄物は、衛生的に、また、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように処理する必要があること。	人間の生活に伴って生じた尿やごみなどの廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことを理解できるようにする。また、ごみの減量や分別などの個人の取組が、自然環境の汚染を防ぎ、廃棄物の衛生的管理につながることに触れるようにする。なお、公署が見られる地域においては、イ、ウの内容と関連させて、その公署と健康の関係をも具体的に取組むことにも配慮するものとする。	①尿や生活排水がどのように処理されるのかを理解する。 ②尿等の衛生的処理の必要性について理解する。 ③尿等による水の汚染を防ぐための工夫や方策について考えよう。
⑥内容の取扱い	内容の(2)については、地球の実態に即して公署と健康との関係を取り扱うことにも配慮するものとする。	

授業の計画の想定		
⑤ 具体的指導項目	⑥ 発問や学習活動のイメージ	時間
○適応能力についての理解	①暑い時や寒い時に自分の体感どうやっていいた？	10
	②気温の変化に対する適応能力について理解する。	10
○環境がもたらす影響と快適な環境について理解する。	③暑地での環境適応と比べてみよう。	10
	④適応能力を超えた環境の例を出し合ってみよう。	10
○環境がもたらす影響と快適な環境について理解する。	⑤適応能力の限界と健康への影響について理解する。	10
	⑥適応能力の限界と健康への影響について理解する。	10
○環境がもたらす影響と快適な環境について理解する。	⑦暑く感じるようにする実験には、どんなものがあろうか。	10
	⑧至適温度について理解する。	10
○環境がもたらす影響と快適な環境について理解する。	⑨暑地や作業の効率やスポーツの記録の低下がみられることにも触れるようにする。明るさについては、視作業を行う際には、物がよく見え、目が疲労しない至適範囲があること、その範囲は学習や作業などの種類により異なることを理解できるようにする。	10
	⑩明るさの調整の工夫について自分の生活にあてはめて考えよう。	10
○空気の汚れる原因と影響について考え、対処法を理解する。	⑪空気が汚れていると感じたことのある体験と、なぜそう感じたのかを発表させる。	10
	⑫なぜ、室内の空気が汚れるの？	10
○空気の汚れる原因と影響について考え、対処法を理解する。	⑬二酸化炭素と一酸化炭素がもたらす影響について考えよう。	10
	⑭汚れた空気をきれいにするためにはどうすればよいでしょうか？	10
○水の役割とその利用について理解し、安全な水の確保のためにできることを考える。	⑮人間は生命維持のために一日にどれくらいの水分が必要だろうか？	10
	⑯水と人間の生命の維持や健康とのかかわりについて話し合ってみよう。	10
○水の役割とその利用について理解し、安全な水の確保のためにできることを考える。	⑰飲料水の衛生的管理について理解する。	10
	⑱節水のために自分ができる工夫はないか話し合ってみよう。	10
○尿・生活排水の処理について理解を深め、環境汚染との関係を知る。	⑲尿や生活排水がどのように処理されるかを考えよう。	10
	⑳尿等の衛生的処理の必要性について理解する。	10
○尿等の衛生的処理の必要性について理解する。	㉑尿等による水の汚染を防ぐための工夫や方策について考えよう。	10
	㉒尿等の衛生的処理の必要性について理解する。	10
○ごみ問題が環境の問題であることを押さえ、自ら循環型社会を目指してできることを考える。	㉓毎日出るごみはどのように処理されているのでしょうか？	10
	㉔ごみ処理の方法と今後の対応について理解する。	10
○ごみ問題が環境の問題であることを押さえ、自ら循環型社会を目指してできることを考える。	㉕ごみ処理の限界と今後の対応について理解する。	10
	㉖ごみの分別収集がなぜ行われているの？	10
○ごみ問題が環境の問題であることを押さえ、自ら循環型社会を目指してできることを考える。	㉗ごみの分別収集がなぜ行われているの？	10
	㉘自分にできる3Rの取組を考えよう。	10
○環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	㉙知っている公害を挙げ、その症状を発表させる。	10
	㉚環境汚染の健康影響について理解する。	10
○環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	㉛国内外を問わず深刻な環境問題を取り上げ、調べてみよう。	10
	㉜環境問題について、発表を通して理解を深める。	10
○環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	㉝質疑応答でより深める。	10
	㉞気になる環境問題を取り上げ班で調べよう。	10
○環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	㉟各々が調べたことを発表する。	10
	㊱発表を聞いて質問をする。	10

評価規準、評価機会の想定		
関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
身体に適応能力を超えた環境の健康への影響や、快適で健康な生活が送れる環境の範囲について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	身体が環境に対する適応能力・至適範囲について、健康に関する資料等を調べたことを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。	身体に適応能力を超えた環境の健康への影響や、快適で健康な生活が送れる環境の範囲について、言ったり書き出したしている。
飲料水や空気は、健康と密接な関係があること、衛生的な基準に適合するように管理する必要があること。	飲料水や空気は、健康と密接な関係があること、衛生的な基準に適合するように管理する必要があること。	室内の二酸化炭素は、人体の呼吸作用や物質の燃焼により増加すること、そのため、室内の空気が汚れてきているという指標となること、定期的な換気は室内の二酸化炭素の濃度を衛生的に管理できることを理解できるようにする。
人間の活動によって生じた廃棄物は、衛生的に、また、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように処理する必要があること。	人間の活動によって生じた廃棄物は、その種類に即して自然環境を汚染しないように衛生的に処理されなければならないことを理解できるようにする。また、ごみの減量や分別などの個人の取組が、自然環境の汚染を防ぎ、廃棄物の衛生的管理につながることに触れるようにする。なお、公署が見られる地域においては、イ、ウの内容と関連させて、その公署と健康の関係をも具体的に取組むことにも配慮するものとする。	水の役割と利用について現状を分析することができる。また、飲料水の安全性と水質汚染の関わりについて言ったり書き出したしている。
尿や生活排水がどのように処理されるかを考えよう。	尿等の衛生的処理の必要性について理解する。	尿や生活排水がどのように処理されるかを考えよう。
ごみ問題が環境の問題であることを押さえ、自ら循環型社会を目指してできることを考える。	ごみ問題が環境の問題であることを押さえ、自ら循環型社会を目指してできることを考える。	ごみの減量や分別などの個人の取組が、自然環境の汚染を防ぎ、廃棄物の衛生的管理につながることに触れるようにする。なお、公署が見られる地域においては、イ、ウの内容と関連させて、その公署と健康の関係をも具体的に取組むことにも配慮するものとする。
環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	公害の歴史的背景と現在の環境汚染を比較し、今後も起こりうる環境問題について言ったり書き出したしている。また、環境汚染が引き起こす健康問題について言ったり書き出したしている。
環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	環境汚染と健康問題について理解を深め、身近な環境汚染の問題を捉え、改善のためにできることを考える。	発表内容を理解し、より深めるために質問することができる。

教師の働きかけ

押えるべき知識の前

知識を活用する学習活動例

関心・意欲・態度、思考・判断、知識・理解と合わせても以下になるように設定する(1時間に3観点そろわないように)。

知識・理解は、毎時のワークシートや小テストから評